

資料紹介

中国社会学社とその定期刊行物について

——1930年から1948年まで——

星 明

〔抄 録〕

中国社会学社 (The Chinese Sociological Society) は1930年2月8日に設立された最初の全国規模の社会学の学術団体である。その前身は1928年10月29日に創設された東南社会学会であり、その後中国社会学社は途中10年の活動の中断があったが、1948年まで18年間の活動期間があった。

本稿は当学社の活動をその定期刊行物である『社会学刊』(1929-1948)、『社会学訊』(1946年5月-1948年4月)、『中国社会学訊』(1947年4月-1948年9月)、『社会建設』(1944年7月-1946年7月)、『社会建設』(復刊)(1948年6月-1949年1月)などの1次資料をとおして1930年の創立から1948年の活動の停止までをあつかったものである。

1900年前後に、中国に社会学が欧米および日本から輸入され、その約30年後に中国社会学社が創設されたが、本稿では中国の社会学が成長、発展して行くプロセスの一端を明らかにすることができた。

キーワード：中国社会学社、社会学刊、社会学訊、中国社会学訊、社会建設

1. 中国における社会学の学術団体および中国社会学社の創立の契機

中国における社会学の最初の学術団体は、1922年に余天休が北京で発起して設立した中国社会学会である。しかし、会員はごく少数であった。この学会は『社会学雑誌』(*The Chinese Journal of Sociology*)を刊行し、社会学者の許仕廉、朱友漁、黄文山、胡鑑民、李劍華、陳達およびアメリカ人の社会学者J.S. バージェスなど20名余りが前後して編集にあたったが、5巻4期、掲載論文160編余で停刊した。その後、1930年代までにこの学会と刊行物は自然に

途絶えてしまった⁽¹⁾。この学会，社会学雑誌および余天休について，韓明謨，楊雅彬，鄭杭生・李迎生がそれぞれ論じている⁽²⁾。筆者はこの雑誌の創刊号の第1巻1号は入手できなかったが，2号にこの雑誌1号の論文目録が掲載されているので，次にあげておきたい。

【資料1】『社会学雑誌』（第1巻第1号，1922年2月，中国社会学会）論文目録

社会学原理	余天休
中国人口之分配	張耀翔
地之機械的分配及其感化力	錢秣陵
原人心理	余天休
人類之競争	余天休
肺勞病與社会之關係	黃敬業
伝染病與公安	黃新彦
加増小学教員薪金之時論	楊蔭慶
研究社会学及社会問題之資料	記者

（『社会学雑誌』，第1巻第1号要目，『社会学雑誌』，第1巻2号要目1922年9月，中国社会学会，p.4から）

この2号についてはかつてその論文目録を紹介したので，参照願いたい⁽³⁾。なお，この2号には「本雑誌の主旨」について，「本雑誌は公開主義を採用し，およそひとや集団に関連する著作を一律に歓迎する。本雑誌は中国社会学会の言論の機関であり，本雑誌はただ本雑誌の経営・管理を行なうのみであり，責任はまったく負わない。中国社会学会はもっぱら中国の社会学者および社会学の研究に素養をもつひとの連絡を行なう。入会を希望するみなさんは北京西単中鉄匠胡同23号まで手紙をください」とある（余天休，1922，「本雑誌宗旨」，『社会学雑誌』，第1巻第2号，中国社会学会）。

この中国社会学会の存続が危うくなり，一時停刊した社会学雑誌の使命を継続するものとして燕京大学社会学部が1927年6月に，『社会学界』（*THE SOCIOLOGICAL WORLD*）を創刊した。燕京大学社会学部主任の許仕廉が編集長であった。この雑誌は1926年6月から1938年6月の停刊までに10巻が刊行され，137編の論文が掲載された。燕京大学社会学会は，大学を超えた全国規模の学術団体とはみなせないが，ここでは一つのグループとして取りあげた。その理由は11年にわたって定期的に刊行されたこと，その論文のレベルが高かったこと，および燕京大学社会学部の中国の社会学上の地位を確かなものにしたからである。筆者はかつてこの雑誌の創刊号と最終号（1938年6月）の論文目録を紹介したので参照願いたい⁽⁴⁾。

うへの二つの学術団体はいずれもいまだ全国的規模ではなかったが，次に1930年2月に創立された中国社会学社は全国的規模の学術団体である。この団体の前身は上海，南京地域の各大学の社会学の教員によって，1928年10月に創立された東南社会学会である。この東南社会学会の設立の経過は次のように述べられている。

「上海の各大学の社会学の教授は，ここ数年各大学の社会学部が次第に発展を遂げていることに鑑み，共同研究機関を組織する必要を感じていた。（民国）17年9月6日，ちよ

うと呉景超博士がアメリカ留学から帰国した際、復旦大学の社会学教授孫本文が一席を設けて、上海の各大学の社会学教授を招待した。出席者は孫、呉景超のほか、余天休、呉澤霖、潘光旦、王際昌、應成一、俞頌華、李劍華、温崇信のほか、ちょうどよく上海にいた南京中央大学社会学教授の游嘉徳も参加した。宴席で、この機会を借りて社会学会を立ちあげる可能性について議論しようという話がでた。話し合いの結果、東南各省で社会学を専攻する者の共同研究の連携を趣旨として、全員が東南社会学会を組織することに賛成した。ただちに呉澤霖、潘光旦、孫本文を臨時委員に選び、規約を起草した。まもなく10月11日に茶話会を開き、孫本文、呉澤霖、潘光旦、李劍華、俞頌華、錢振亜、温崇信ら8人が出席し、起草した規約に同意した。さっそく10月29日に持ち回りで委員を選挙した。開票の結果、孫本文が常務委員兼編集主任、呉景超が編集、呉澤霖が書記兼会計に選ばれた。ここに、東南社会学会が正式に成立した。」

(「東南社会学会紀事組織経過」、『社会学刊』、第1巻第1期、1929.7、東南社会学会、p.1)

この前身の東南社会学会を経て、中国社会学社が設立された経過は次のように記されている。

「(民国)17年冬、孫本文、呉澤霖、呉景超、游嘉徳らが上海で東南社会学会を組織し、社会学刊を発行した。18年秋、北平(北京)の陶孟和、許仕廉、東北の劉弱らが東南社会学会と連絡をとり、全国の社会学会を組織することを提唱した。本来、新年のはじめに上海で成立大会を挙げる予定であった。後に事情があつて、2月8,9日の両日に変更して、上海で挙行された。南京地域からは孫本文、呉景超、游嘉徳が、上海地域からは呉澤霖、錢振亜、應成一、北平地域からは許仕廉らが設立準備委員に選ばれた。ここで中国社会学社成立会の経過を次に略述する。

2月8日午前9時、当社は上海四川路青年会で開幕式を挙行した。出席者は、中央、金陵、燕京、清華、北大、厦門、滬江、光華、復旦、大夏、協和の各大学の代表ら100余人であり、孫本文が主席に推挙された。主席は席につき、東南社会学会の改組ならびに中国社会学社の準備経過を報告し、続いて中国社会学社の規約を討論し、採決した。その後、参加を要請した蔡子民先生が演題「社会学と民族学」で講演した。講演後、続いて会議を開催して、当社の第1回の理事を選挙し、孫本文(中大)、許仕廉(燕京)、呉澤霖(大夏)、楊開道(中大)、錢振亜(滬大)、呉景超(金大)、陶孟和の7人が理事に選ばれた。應成一、王際昌、游嘉徳、胡鑑民、呉文藻の5人が理事候補に選ばれた。選挙後、各理事によって集会がもたれ、当社の第1期の役員を互選し、孫本文が正理事、許仕廉が副理事、呉景超が書記、呉澤霖が会計に選ばれた。潘光旦、許仕廉、孫本文、呉景超、游嘉徳、應成一、呉文藻、呉澤霖、李劍華の9人が編集委員に選ばれた。そのなかで、孫本文、呉景超、游嘉徳が常務編集委員に選ばれた。午後2時半、論文の発表がはじまった。

人口問題、家族問題、社会心理学そして社会学教育の四つのグループに分けられた。人

口問題のグループは孫本文が主宰した。発表論文は孫本文の人口問題のなかの文化的要素、呉景超の人間の遺伝の研究の批判についてである。家族問題のグループは呉景超が主宰した。発表論文は潘光旦の家譜の研究、傅尚霖の家族集団の近代の複雑性についてである。社会心理学のグループは呉澤霖が主宰した。発表論文は呉澤霖の社会心理の内容、潘菽の社会の多層性についてである。社会学教育のグループは許仕廉が主宰し、鄧脱摩飯店で教学上の各問題が討論されて、午後9時に散会した。

9日午前、もともと工商部長の孔祥熙に演説を要請していたが、孔部長は健康がすぐれないため、代わって壽景偉先生が代理として来会して、講演を代読した。その後、理事会が再び招集されて、来年の年次大会の問題が検討された。そこで、来年の年次大会は南京で開催し、中心テーマは「人口問題」を討論することに決定した。

また、来年の年次大会委員を9人選び、事務グループに楊開道、陳鐘聲、游嘉徳、論文グループに許仕廉、喬啓明、潘光旦、経費グループに楊開道、許仕廉、錢振亜とした。午後2時半、続けて論文発表がグループごとに行なわれた。社会調査・研究、社会工作（ソーシャル・ワーク）、そして農村社会学の三つのグループである。社会調査・研究グループは應成一が主宰した。発表論文は王濟昌の上海社会の研究、言心哲の中国社会学調査運動、孫本文の中国文化研究の発端、游嘉徳の中国社会学調査の困難、應成一の社会研究および社会測定についてである。社会工作グループは錢振亜が主宰した。発表論文は巖景耀の監獄待遇の改善、錢振亜の大学のなかの社会行政人材の訓練、毛起鷄の上海の社会行政部門の概略についてである。農村社会学のグループは楊開道が主宰した。論文発表は楊開道の中国の大学のなかの農村社会学研究であり、張鏡予の農村信用合作の研究は時間の関係で発表できなかった。夜6時半、鄧脱摩飯店を借りて、各界を宴席でもてなした。孫本文主席が歓迎のことばを述べた。また、中国社会学社を組織したさまざまな理由を述べた。続いて、胡適之、潘公展、陳立廷、舒新城、朱應鵬、徐蔚南、馬崇淦、袁業裕らが相次いで請われて演説をした。最後に、許仕廉の感謝のスピーチで解散した。また、商務印書館から東方雑誌のカレンダーと日記帳がそれぞれに贈られて、記念とした。」

（「中国社会学社成立会記」、『社会学刊』、第1巻第4期、1930.9、東南社会学会、附録、pp.1-2）

2. 中国社会学社の活動

中国社会学社の活動の内容は、大きく二つに大別できる。すなわち、年次大会の開催と刊行物の発行である。

2.1 中国社会学社の年次大会の開催

学会の年次大会の開催は、創立総会を経て第9回の開催までである。それぞれの開催日程とその内容の詳細については、筆者がすでに紹介しているのでそれを参照願いたい(星明, 2021, 中国社会学史の研究, 一粒書房, pp.24-28)。開催日程が、第1回(1930)から第6回(1937)までは、1-2年間置きに1度開催されているが、その後第6回から第7回(1943)までは6年間、第7回(1943)から第8回までは4年間、第8回から最終回の第9回(1948)までは1年間の間隔である。この第9回が最後の開催となった。この第7回と第8回の時間的隔たりは、明らかに日中戦争の影響である。また、第7回から第9回は、年次大会の開催地が分散されているが、これも日中戦争の影響と戦後の学会体制の再建のためである。第1回には年次大会のテーマはあげられていないが、それ以後第2回は人口問題、第3回は家族社会学、第4回は民族文化、災害と凶作など、第5回は社会計画、第6回は中国社会学の再建、第7回は戦後社会建設、第8回は中国社会学の今後の発展のとりべき道、第9回は個々に社会学とその他の社会科学との関係、20年来の社会学、中国社会学の展望があげられている。第7回から第9回のテーマは中国が歴史的におかれた状況に大きく対応している。すなわち、抗日戦争後の社会の再建や社会学それ自体の将来の展望などである。また、開催地については、第1回と第2回は上海と南京、第3回は北平(北京)、第4回から第6回までは上海および南京、それ以後は分散して開催され第7回は重慶、成都、昆明、第8回は南京、北平、広州、成都、第9回は南京、北平である。

2.2 中国社会学社の定期刊行物

中国社会学社の定期刊行物には、次の五つがある。すなわち、1.『社会学刊』(*The Sociological Journal*) (1929-1948)、2.『社会学訊』(1946年5月20日第1期(創刊号)-1948年4月20日第7期、中国社会学社広東分社)【資料2参照】、3.『中国社会学訊』(1947年4月15日創刊号(第1期)-1948年9月第8期(最終号)、南京中国社会学社)【資料3参照】、4.『社会建設』(1944年7月第1巻第1期-1946年7月第1巻第5期、社会建設月刊社)【資料4参照】、5.『社会建設』(復刊)(*THE JOURNAL OF SOCIAL RECONSTRUCTION*) (1948年6月1日第1巻第1期-1938年1月1日、社会建設月刊社)【資料5参照】である。

第1の『社会学刊』(1929-1948)は、他の四つのものに較べて、オーソドックスな学術誌である。これは第1巻第1期から第4期までが東南社会学会から、第2巻以後最終刊の第6巻合刊までは中国社会学社から発行されている。約17年にわたって刊行されたが、実際には第5巻第3期(1937年4月20日)の刊行後、第6巻合刊(1948年1月)の最終刊まで11年間中断していた。これは、日中戦争に起因するものである。しかも、この社会学刊は1949年の中華人民共和国の樹立後に共産党の社会学に対する否定的評価にもなって、学問としての社会学、社会学の研究と教育とともに、この刊行物も停止した。全巻の発行時期およびその掲載論

文内容については、筆者がすでに紹介しているのでそれを参照願いたい（星明，2023，中国社会学史－清末民国，反右派闘争，改革開放下の社会学－，フィールドワークズ，pp.82-91）。因みに，社会学刊の最終刊になってしまった第6巻合刊には次のような「復刊詞」が述べられている。

「本刊は民国18年7月に創刊され，全国の社会学界の同人のための唯一の共同刊行物である。これまで多年にわたって発表された学術論文は150編を超えている。執筆者の多くは国内の各大学の社会学の教授である。民国26年に第5巻2期（ママ）を刊行後，抗戦が烈しくなり，本学社の経済的困難によって，刊行を継続できず今日まで休刊してきた。またたく間に10年を超えてしまった。勝利の後，いくたびかの計画を経て，正中書局が発行を快諾してくださり，ようやく学術界で再びお目にかかれることとなった。ただ印刷が困難であるので，暫定的に年1巻の合巻とする。情勢が好転しだい，再び季刊に戻す。およそわが社会学界の同人のみなさんには惜しまず，どんどん原稿を送ってくださるようお願いしたい。これをもって引き続き印刷でき，予定どおりに出版できるようになる，期待しています。」

民国36年12月1日，孫本文識

（孫本文，1948，「復刊詞」，『社会学刊』，第6巻合刊，中国社会学社）

第2の『社会学訊』（1946年5月20日第1期（創刊号）-1948年4月20日第7期（最終号），中国社会学社広東分社）は，うえの社会学刊が日中戦争によって一時停刊した時に，各地に散らばってしまった会員の音信を主に目的として刊行されたものである。社会学訊の第1期（創刊号）の編集後記には，発刊の契機が次のように記されている。

「抗戦中，同人は各地に分散し，音信が乏しくなっていました。現在，広東分社は国内外の社会学界と，相互に情報を交換するという見地から，特別号の『社会学訊』ではもっぱら短編の論文，国内外の社会学研究の概況，社会学界の消息および分社の活動ニュースを掲載します。毎月一回の出版とします。……消息の部分については，この第1期では広東地区に片寄っていますが，今後他の分区についても報告しますので，各地の同人の寄稿を望みます。分社はまた将来，学術的な刊行物，書籍および叢書を出版しようとしていますので，とりわけ同じ道を歩むひとの協力を希望します。」

（「編後」，1946年5月20日，『社会学訊』，第1期，中国社会学社広東分社，p.8）

この『社会学訊』は1946年から1948年まで約2年間にわたって，7期まで発行されたがその内容は次のようである。

【資料2】『社會學訊』(中國社會學社廣東分社)全卷目錄

『社會學訊』(第1期, 1946年5月20日, 中國社會學社廣東分社)

論著

- 文化科學上的因果功能方法.....黃文山
戰時中國人類學.....羅致平

社會學界消息

- 廣州各校社會學系現況 國立中山大學 廣東省立法商學院 私立嶺南大學
廣東省社會處工作概況
中國社會學社廣東分社成立經過
國內社會學巨著行將出版

編後

『社會學訊』(第2期, 1946年7月1日)

- 教育社會學的發展.....陳劭南
重慶商業銀行對於社會之影響.....謝哲邦
中國奴隸制社會簡說.....董家遵
說遺俗.....岑家梧

『社會學訊』(第3期, 1946年8月1日)

- 美國人及其文明.....楊成志
我怎樣研究文化學.....陳序經

社會學界消息 中央大學社會學系簡況 中山大學舉行社會調查楊成志歸國

編後

『社會學訊』(第4期, 1947年1月15日)

- 中國研究社會學者的出路問題.....龍冠海
社會的真實性.....劉 渠
近代中國民族學選目緒言.....古道濟

社會學界消息 龍冠海主持中山大學社會學系 黃文山返穗 中國民族學會近況

編後

『社會學訊』(第5期, 1947年5月31日)

論文

- 兒童是否需要家庭.....周信銘
紀念格史教授.....龍冠海
「七月」一詩的社會背景.....董家遵

圖書評介

- 岑家梧著「西南民族文化論叢」序.....黃文山
讀「蚤民的研究」.....羅致平

社會學界消息 中山大學社會學系舉行社會調查 中國社會學社總社恢復 教育部召開邊疆教育會議

『社會學訊』(中國社會學社廣東分社36年年會論文提要專號)(第6期, 1947年10月23日)

- 文化體系的類型.....黃文山
宋代莊園經濟之發展.....高達觀
小市鎮(坪石)人口構成的分析.....劉 渠
從社會學觀點研究詩經.....董家遵
社會事業在中國.....周信銘
雲南擺夷的社會組織.....江應樑
水書與水家社會.....岑家梧
婚姻年齡與夫婦年齡相差之研究.....陳躍雲
干蘭研究.....戴裔煊

中国社会学社とその定期刊行物について（星明）

広東農村貧款問題研究……………	謝哲邦
社会政策的理論性……………	謝健弘
人類学與心理学対人格研究的互合……………	梁劍韜
行為支配力與型式……………	吳大基

『社会学訊』（第7期，1948年4月20日）

研究西南文化的意義……………	陳序經
社会思想的本質……………	周信銘
社会現象能否成為科学研究……………	陳躍雲
「中国奴隸社会史」書後（37年1月 中国社会学社広東分社出版）……………	羅致平
社会学消息 中国社会学社總社近況 中国社会学社広東分社举行八届年会 中山大学社会学系近況	

第3の『中国社会学訊』は、南京中国社会学社が1947年4月から1948年9月まで約1年半にわたって発行したものである。この中国社会学訊は、うえの社会学訊のほぼ1年後に、同じ状況のもとで、同じ目的で刊行された。この創刊号で、その発行の使命について柯象峯は次のように述べている。

「中国社会学社は国内外の社会学の人士が組織した純粋な學術団体であり、創立以来すでに20年近い。同人は常に研究に潜心し、タイムリーな成果が期待されている。抗戦期間、銃後にあり、各地に散り、活動も停滞しているという消息が伝わった。昨年、中華民国国民政府が平時の体制に復し、各項目の活動を早急に推進する必要がある。印刷資金の制限によって、社会学刊は一時的に年に1号の発行となったが、社会学界の動態および進展については、随時報告し、会員相互間の消息を伝達し、共有する必要があると考える。しかも、機会を逃すことを避けるために、毎月通訊を発行することを決定した。ページ数は比較的少ないが、その内容は暫定的に次のようである。

1. 社会学研究でえた知識および調査研究を刊行し、配付すること。したがって、文章は簡略で要点を尽くしたものであること。
2. 社会学の領域で、中国と西洋の新著の紹介および書評。
3. 当社および各分社の活動のニュースの発表。
4. 社会学界の人事の動態。
5. その他の學術に関する音信」

（柯象峯，1947，「中国社会学社通訊之使命」，『中国社会学訊』，創刊号（第1期）所収，南京中国社会学社，p.8）。

【資料3】『中国社会学訊』全巻 掲載論文目録

『中国社会学訊』（創刊号・第1期，1947年4月15日，南京中国社会学社）

短論

社会学研究之展望……………	柯象峯
20年来中国社会学界の一貫精神……………	孫本文

書評

1 年来国内社会学著作簡述	陳定閔
紹介英国幾位社会科学家所合編的社会研究法	馬長壽
芮逸夫著伯叔姨舅姑攷及苗語积親	馬松齡
中国社会学社訊	
1, 首都中国社会学社同仁敘餐会 2, 社員動態	
各大学社会学系系訊	
中央大学社会学系概況 金陵大学社会学系概況 金陵女子文理学院社会学系概況	
學術团体動態	
記边疆研究团体聯誼会	
付録	
中国社会学社通訊之使命	柯象峯
附啓	

【中国社会学訊】(第2期, 1947年5月15日)

簡論

各国社会安全政策实施概況	傅尚霖
社会部不可取消	吳景超

新書介紹

20 世紀社会学 (Twentieth Century Sociology, Edited by Georges Gurvitch and Wilbert F. Moore, 1945)	史邁士 (L.Swythe)
中国鄉村 (A Chinese village, Martin C. Yang, 1945)	何肇發訊
大凉山 - 夷区考察記 (曾招掄著, 1945)	徐益棠

中国社会学社訊

1. 本社在京同仁座談会
2. 中国社会学社廣東分社概況

各大学社会学系系訊

清華大学社会学系概況 国立社会教育学院社会事業行政学系概況

【中国社会学訊】(第3期, 1947年6月15日)

簡論

從個人心理觀點解釋羣集心理	周信銘
介紹美国傷殘重建工作 - 向本年度年会的建議	林振威
我对今後中国社会学社之希望	柯象峯

新書介紹

实验社会学 - 方法論的研究 (Experimental Sociology: A Study in Method, by Ernest Greenwood, 1945)	史邁士 (L.Swythe) 著 · 何肇發訊
紹介幾種有閩边疆問題的雜誌	陳定閔

中国社会学社訊及各大学社会学系訊

本社與3大学社会学系合作「南京市社会学的研究」
国立中山大学社会学系近貌 私立滬江大学社会学系概況 社員動態報導
社員動態報導

【中国社会学訊】(第4期, 1947年7月15日)

簡論

社会的民主	馬長壽
民俗学在中国	岑家梧

書刊評介

黎朋 (ル・ボン) 著羣集心理学的新批判	胡鑑民
孫本文教授著『現代社会学發展史』	陳定閔

各大学社会学系系訊

北平燕京大学社会学系概況 廣東省立法商学院社会学系概況

學術团体動態介紹

中国社会学社とその定期刊行物について（星明）

記首都辺疆學術団体第3次聯誼会
介紹「手工芸運動」
會員動態及新著作
附啓

『中国社会学訊』（中国社会学社第8届年会特刊）（第5期，1947年9月）

簡論

中国社会学者今後努力方向之商榷……………孫本文
中国社会学社の責任和前途……………言心哲

年会論文摘要

青海「土人」の婚姻與親族制度……………衛惠林
農村社会学的性質……………吳文暉

社訊

中国社会学社概況 支各哥大学分社

專載

全国各大学社会学系教師一覽表（1947年9月調査）

『中国社会学訊』（第6・7期合刊，1947年11月）

簡論

精神病的社会研究與防治……………湯銘新

年会論文摘要

社会学方法論上の幾個問題……………趙承信
美国大学社会学課程的分析……………言心哲

書評

兩本社会学介評

1. W.F.Ogburn and M.F.NimKoff, *Sociology* (1946)
2. R.T.Lapierre, *Sociology* (1946)

社訊

1. 京滬区中国社会学社第8届年会紀実
2. 平津区分社8届年会紀略
3. 成都区中国社会学社分社8届年会紀略
4. 広州区中国社会学社分社8届年会紀略

团体消息與社員消息

国立復旦大学社会学系概況

社員動態及其它

『中国社会学訊』（中国社会学社20周年紀念暨第9届年会特刊）（第8期，1948年9月）

簡論

20年来之中国社会学社……………孫本文
祝中国社会学社20週年紀念……………言心哲
中国社会学社の成年……………傳尚霖
中国社会学の過去與未來……………朱約庵・吳百思・毛起鷄・陳定閔
建立中国社会学商兌……………馬長壽

中国社会学社年会（第9届年会20週年紀念）日程

- (1) 南京總社
- (2) 北平区

社訊

中国社会学社概況

うえの第8期が中国社会学訊の最終刊であるが、学社の会員のだれもがこの時点で、これが

最終号になるとも、また学社の活動が中断するとも、ましてや中国で社会学研究・教育が廃止されるとは、思いもよらなかった。それはこの第8期の題目とその内容からも明らかである。しかし、実際には、1949年10月1日に中華人民共和国が樹立した翌年の1950年に中国共産党の新政権の教育部が「大学カリキュラム改革委員会」を設けて、社会学部および社会学の位置付けを規定して以後、1952年に社会学部をもつ大学を中山大学と雲南大学の二つにだけにし、1953年にはこの二つの大学の社会学部も廃止し、中国での社会学の教育、研究活動は完全に停止させた。そして、1957年に中国共産党が展開した反右派闘争のなかで社会学の研究はタブーになった⁽⁵⁾。

この最終刊で、孫本文は中国社会学の20年間の活動を次のように述べている。また、うへの朱約庵らの中国社会学の過去と未来については、筆者がすでに訳出しているので参照願いたい(星明, 2021, 前掲書, pp.318-321)。

「中国社会学社は成立してから、すでに20年が経過した。幸い社員みんなの努力によって、いくぶんか成果があったとすることができる。いま20周年の記念にあたり、これまでの沿革を略述して、過去の検討をとおして未来の糧としたい。

当社の成立の当初に同人を思い起こすと、三つの期待があった。

- (一) 社会学界の人びとを繋げ、共同で研究を行なうこと。
- (二) 組織的な力で、社会学の発展をはかること。
- (三) 共同の意志で、社会学理論の社会の現実面での応用を追求し、もって国家民族に対していささか微力を尽くすこと。

第一点についていえば、当社は年次大会と定期刊行物を共同研究と共同発表の機構とする。年次大会は外国の侵略と抗日戦争によって、毎年開催することができなかったが、前後して8回(ママ)開催できた⁽⁶⁾。毎年の年次総会では、全国のすべての社会学界の人びとが熱意をもって集まり、それぞれが平素の個人の研究経験を発表し、同人と意見を交換した。前後して、論文の口頭発表は総数150編以上になった。編集された定期刊行の『社会学刊』については、抗戦前に5巻2期(ママ)⁽⁷⁾まで、計18冊が刊行された。抗戦の勝利後、再び第6巻合刊が刊行された。民国21(1932)年に、年刊『中国人口問題』が出版された。前後して社会学刊および年刊に発表された論文は200編に達した。近年、『中国社会学訊』月刊が刊行され、主として当社のメンバーの音信を伝えており、すでに8期までだされた。およそこれらは、当社のメンバー相互が切磋琢磨することで、すでに多少成果があった。

次に第二点についていえば、当社の理事および会員20名余りが、かつて国立編訳館と合作し、共同で社会学の術語を編集、翻訳し、社会学の術語1,818語をまとめたものが教育部から発行された。大部分が全国の社会学界の共通の貴重で標準的な訳語になった。続いてまた、社会部と合作で当社の理事数人が責任をもって、共同で『社会建設』月刊を編

集した。社会事業と社会行政の理論、そして実際の問題の検討を主とし、前後してすでに10期まで出版した。このほかに、当社の理事は社会部に次のように提案した、教育部と相談して各著名な大学に社会学部を拡大あるいは、再興あるいは増設する同文の命令をだしてもらい、もって人材を養成するよにと。10数年で社会学部を増設、あるいは再興した大学はすでに多数ある。当社はまた昨年の大会で再び教育部に外国留学生を公募する時に社会学の定員を増やしてもらうよう求めたが、これも検討事項として認められた。これらの努力は、いずれも、当社の組織の力で社会学の発展を願うだけである。

さらに、第三点についていえば、20年来当社のメンバーは各大学で社会学部の学生を指導し、社会の実態調査と研究に従事したものがおよそ100数十件あり、たいていどれも地方当局の参考と応用に供することができた。社会部が成立してから、当社のメンバーはたびたび社会行政計画に参加を請われ、社会政策の案を練りあげて、社会法規などの実際の仕事を立案した。すべて慎重な研究を経て、力を尽くして意見をだし、それが国家民族にとって役立つことを願っている。これらはいずれも、社会学理論の実践への応用を求めるといふ当社の共通の意志である。

上記のことは、当社が過去20年間、高い期待に対して、学术界としての使命を怠っていないと確信していることを示しているといえる。

そのうえ当社は国内で唯一の全国規模の社会学の学術団体であり、全国の社会学界の人はほとんどが当社のメンバーである。いつも意向がまとまり、行動に一貫性があったことは、上記の点からもわかる。これ以外に、当社のメンバーは20年間にいくつかの共同精神を示したが、この20周年の記念日に、私たちの活動の趨勢をてがかりにして、簡単に述べさせていただきたい。

第一に、心を合わせて助け合う精神。当社は最初、このような組織の必要性を感じた同人によって創設された。続いて、東南社会学会から全国規模の当社に拡充されたが、全国社会学界の同人もこのような必要があると感じていた。続いて、年会を開催し、学会の刊行物を創刊したことは、全員が必要性を感じただけでなく、全員が全面的に協力し、すべてを話し合っ、一度決めたら異論はなかった。年会には各地、各大学が派遣した代表が出席し、完全に自由でかつ熱心であった。社会問題を議論するとき、固執して争うことは決してなく、みんなの合理的な意見のみに従った。みんなにはただ一つの目標、つまり中国の社会学を発展させ、中国の社会学を国家、社会に貢献させ、中国の社会学を世界の学术界のなかで一定の地位を占めねばならないという目標があった。このために、全国社会学界の同人は、一貫して心を合わせて助け合っている。

第二に、各自それぞれの道の研究を行なう精神。当然のことながら、社会学分野の同人にはもっとも関心のある研究部門があり、それぞれが独自の専門知識をもっている。20年来、同人のなかには社会学の領域になかである一部門に対して特別の研究と貢献をもつ

ひとがきわめて多い。たとえば、陳達氏の労働問題およびその世帯に対する全数の実験工作、陶孟和氏の生活レベル調査、許仕廉氏の人口問題、潘光旦氏の優生学、呉景超氏の社会経済と都市社会学、呉澤藻氏の民族調査と人口問題、黄文山、陳序経、呉文藻諸氏の文化研究、李景漢、言心哲、張世文諸氏の社会調査、柯象峰氏の貧困問題と人口問題、徐益棠、何聯奎、凌純声、衛惠林、馬長寿諸氏の民族学、李安宅、岑家梧両氏の民俗学、喬啓明、費孝通、呉文暉諸氏の農村社会研究、張鴻鈞、蔣旨昂、陳文仙、湯銘新、熊芷諸氏の社会工作、應成一、朱亦松諸氏の社会学理論および個別にあげていない他の同僚たちも同様に、各々がそれぞれの専門分野に特化し、別々の方向で研究しており、それぞれ別れて一派を構えたりし、互いに排除したりすることなく、学術的な見解の異同を受け入れており、教育の目的に食い違いはない。この精神はいまでも色褪せることはない。

第三に、堅忍不拔の精神。当社は20年来時局の関係でいくども困難に、たとえば、年会の中断や、学会刊行物を継続して出版できない困難に遭ったが、当初の計画を決して断念せず、時局が改善するとすべて回復した。すなわち、抗戦期には一般のメンバーの生活はいかに苦難に満ちていたか。年会は7年間中断した後、やはり努力して重慶、昆明、成都の三つの地域で別々に開催した。社会学刊は10年の中断後、同じく正中書局にお願いし、年刊の形式で出版した。これらは、みな当社のメンバーの堅忍不拔の辛苦奮闘の精神があらわれている。

第四に、純粋な学術の精神。社会学は理論と応用の二つの部分に分けることができるが、その本体はただ一つの学術である。つまり、応用という点では、私たちは学術理論の研究にのみ焦点を当てており、最初から実践的な応用には関与していない。たとえ近年、同僚がソーシャルワークや社会行政の研究と応用に注目していても、それらは依然として学術理論の議論と分析、およびこの人材の訓練に限定されており、態度や方法の点で実際の社会的技術活動とは多少異なる。これが、社会学者が社会学者である所以である。この点についてはすべての教授が同意するはずだが、国は過去10年間にわたって人材を招請してきており、そのなかには政府で働いているひともいる。かれらが就いている職がすべて社会学部にあるわけではないが、社会学の研究、社会学の視点と方法を決して諦めていない。この精神は同人を安心させる。

現在、当社はすでに20年の歴史がある。これまでを振り返ると、成果が少ないことを恥ずかしく思うが、今後どのように元来の既定指針に忠実に、前進していくかは、会員のみなさんのたゆまぬ努力にかかっているので、わたしは待望している。

(孫本文, 1948, 「20年来之中国社会学社」, 『中国社会学訊』, 第8期, 南京中国社会学社, pp.1-2)

第4の『社会建設』は、中国社会学社と国民政府社会部との共同編集で、社会部から費用が

だされ、社会建設月刊社から発刊された。1944年7月から1945年10月まで刊行されて停刊した。この停刊理由は記されていない。その後『社会建設』（復刊）が1948年6月から1949年1月まで刊行された。この発刊の理由は次にあげる発刊のことばに明確にされている。

抗日戦争の勝利を目前にして、中国社会をいかにして回復し、再建するかを課題にした刊行物である。政府と学界が共同で取り組んでいることが、その雑誌タイトルやその論著の題目からもわかる。

この社会建設の発刊のことばには次のように記されている。

「抗戦の勝利が、日一日と近づいている。建国事業にとくに力を入れて進めなければならない。ただ建国事業は、糸口が多く、入り乱れている。全国の各分野の専門家、学者の各方面からの研究と設計がなければ、各事業を同時に円満に進めることができない。本刊の発行の狙いは、全国の学術理論研究の豊富な社会学者および実際の経験の豊富な社会事業と社会行政の専門家を動員して、共同で戦時および戦後の社会建設に関する各種の理論と実際問題を議論し研究し、社会学理論と社会技術を実際に生かすため、研究者それぞれが個人の立場から、研究でえた収穫を発表することを期待する、これによって建国の偉業に対して、いささかの貢献をしたい。……（中略）……要するに、本刊の使命は、全国の社会学者と社会事業・社会行政の専門家を集めて、社会建設の各理論と実際問題に関して共同で研究することであるが、しかし発刊早々で、欠点も多くあるに違いない。なお全国の諸賢から十分な教えを願うものである。」

（「発刊詞」、『社会建設』、第1巻第1期、1944年7月、社会建設月刊社、巻頭言のページ）

【資料4】『社会建設』全巻 目録（以下、□印は文字の判読不能の箇所を示す）

『社会建設』（第1巻第1期、1944年7月、社会建設月刊社）

発刊詞

社会論壇

一個亟待培養の觀念—社会福利……………毛起鷄

專著與訳述

社会学與社会行政……………孫本文

我国社会行政的主要問題……………陳達

社会行政證積……………張鴻鈞

社会建設引論……………瞿菊農

我国社会建設之展望……………柯象峯

社会行政的特質及其近今趨勢……………言心哲

社会研習與社会行政……………蔣旨昂

經濟建設與社会福利事業……………吳景超

社会行政與社会効率……………張少微

英国社会行政制度之演化……………龍冠海

蘇聯的工業化與社会建設……………趙康

边疆社会建設……………李安宅

边疆墾殖與社会工作（上）……………任乃強

成都石羊社区的市場……………艾西由

工作—一個普遍的世界問題……………W.G.Phelan 著（国労局代理局長）・劉淑元訳

參考資料

- 科學與戰後救濟…………… □.□.□原著·任寶祥訳
 書刊評介
 沈美 (T.S.Simey) 社會行政原理 (*Principles of Social Administration*, 1937) …… 龍冠海
 社會學及社會建設論文提要
 孫本文……現代社會學在學術界的地位
 蔣旨昂……基層建設
 楊人楩……聖翰斯德之社會政策
 羅梭斯 (W.H.Lawrence) ……戰後救濟初步考驗
 里契 (Harper Luch) ……戰時美國勞工組織
 霍華特 (Quna H.Howard) ……美國的青年組織
 中國社會學社簡史

【社會建設】(第 1 卷第 2 期, 1945 年 1 月)

社會論壇

- 社會救濟法實施問題…………… 楊開道
 專著

- 我國社會救濟法及其使命…………… 陳 達
 社會救濟的原理與實施…………… 陳顯遠
 社會救濟法實施之檢討…………… 柯象峯
 計畫救濟…………… 章元善
 各國社會救濟事業之比較…………… 陳凌雲
 我國之社會救濟制度…………… 高達觀
 社會建設之內容…………… 朱亦松
 邊區墾殖與社會工作(中)…………… 任乃強
 現代社會安全設計之特質…………… 蔣旨昂
 戰時與戰後之社會重建問題…………… 瞿菊農
 社會學的基本觀點…………… 孫本文

參考資料

- 美國社會服務及安全計畫…………… 美國資源計畫局原著·陳立人訳述
 社會學及社會建設論文提要

- 程思遠…………… 社會建設之意義與任務
 袁可尚…………… 社會福利事業的真義
 竇季良…………… 中國固有社會組織
 卓炯…………… 論社會的本質與功能

特載

- 社會救濟法與社會救濟事業 - 1943 年 11 月 8 日在中央紀念週報告 - …… 谷正綱

【社會建設】(第 1 卷第 3 期, 1945 年 6 月)

- 從戰時西南區人口研究談中國人口問題…………… 陳 達
 社會調查…………… 李景漢
 農村社會的特徵…………… 吳文暉
 社會學史上的社會學方法…………… 陳定閔
 我國應如何施行勞工保險…………… 史太璞
 戰後中國社會救濟與重建的難關及其打破籌策 - 戰後中國過渡期間問題的認識 - …… 吳 健
 戰後社會救濟問題選區研究 - 收復區實地觀察 - …… 朱衝濤
 我國的戶籍行政…………… 周榮德
 兒童家庭寄養問題的商榷…………… 葛惟禎
 石羊社區人口分析…………… 艾西由
 個案工作與社團工作之配合 - 美國兒童福利事業的新途徑 - …… 劉 銘

【社會建設】(第 1 卷第 4 期, 1945 年 10 月)

中国社会学社とその定期刊物について（星明）

民生主義與社会保険	祝世康
我国戦後社会安全初歩設計画摘要	吳健
国労提供会員国採用之社会安全諸建議	(輯訳資料)
劳工保險之意義及其心分之種類	史太環
中国之劳工統計事業	汪龍
中国貧窮問題的研究	張華羣
労働奨励問題	李劍華
社区組織概要	蔣旨昂
社会救済與社会福利	陳文僊
對於昆明市工商団体の検討	李景漢
中国過去之社会救済設施	徐益棠

【社会建設】（第1巻第5期，1946年7月）

從社会学觀點去分析住宅問題	楊開道
社区計画與住宅改善	蔣旨昂
如何解決中国戦後房荒問題—兼論房舍改善問題—	呂竹
首都住宅合作推進芻議	錢訓典
美国住宅問題及住宅政策	宋思明節訳
美国首都房政局工作概述	孫珍方訳
華府卡羅李斯堡等差房租制实例	思耕訳
紐約市房政局の平民住宅工作	孫樹奇節訳
介紹美国聯邦房政總管理局	劉銘訳
英国建設部戦後住宅計畫書	黎国慶訳
英国白明罕城的戦後住宅問題	孫珍方訳
近年瑞典的住宅政策	韓光遠節訳
戦後我国居室問題之研究（論文摘要）	李宗賢摘
書刊評介	
汪龍編著 社会調査綱要	孫本文
孫本文等著 社会行政概論	王廷玉

第5の『社会建設』（復刊）は、『社会建設』の停刊の2年後の1948年に発刊された。ただ残念なことに、社会建設の最終期の第1巻第5期にも、社会建設（復刊）の初刊の第1巻第1期のいずれにも、停刊および復刊の経過についての言及はみあたらない。両刊の違いは、後者は前者と比べて掲載の領域が広くなり、かつそれにともなってページ数が多くなっている。また、後者はより現実の社会問題およびその解決に関する論考が増えているし、さらに外国の現状および論著の紹介が増えている。

【資料5】『社会建設』（復刊）全巻掲載論文目録

【社会建設】（復刊 第1巻第1期，1948年6月1日，社会建設月刊社）

社会行政在憲法上の地位與責任	金平歐
社会建設的基本知識	孫本文
從事「職介」以來的感想	喻兆明
讀「中国法律與中国社会」以後	劉緒胎
改進中国育幼事業管見	李鴻音
殘疾教養研究	王道洵
國際劳工組織亞洲区域劳工預備會議述要	王金標
顕微鏡下の労資糾紛	葉鏐・趙二喜合訳

劳工檢查公約及建議書 歷屆國際劳工大会通過……………	張天開訊
南京兒童節速写……………	刁勁波
專載	
勸募兒童救濟金之意義……………	谷正綱
書刊評介	
改造時代的人與社会 (<i>Man and Society in an Age of Reconstruction</i> , 1946) (Karl Mannheim 著·Edward Shils 譯)……………	吳百思
災難中之人與社会 (<i>Man and Society in Calamity</i> , 1942) (P.M.Sorokin 沙羅堅著)……………	陳倚興
國外新書介紹	
<i>How to Interpret Social Welfare : a study course in public relations</i> (社会福利工作報導 方法), 1947 (by Helen Cody Baker and M.S.Routzahn)……………	葉孝善
社会学界消息	
燕京大学社会学系概況	
我国應聯合國邀派出国考察人員介紹	
社工報導	
当前推行兒童福利之幾項重要措施……………	薩福簡
聯合國勸募兒童救濟金在中国……………	姚廣濱
社会部弁理緊急救濟工作実録……………	刁抱石
全国總工会籌備記要……………	顧兆璜
社会法規	
工業会法施行細則 (1948年3月27日社会部公布)	
【社会建設】(復刊 第1卷第2期, 1948年6月1日)	
泛論社会行政……………	方青儒
對於兒童福利工作应有的認識……………	言心哲
都市特性比較研究法……………	吳百思
中国社会救濟之歷史發展……………	俞敏良
土地使用之社会的管制……………	魏重慶
湖南長沙崇禮堡鄉村調查……………	孫本文·陳倚興
紀念美国社会学家湯麥史 (William Issac Thomas) 博士……………	孫本文
職選參議員調查誌要……………	劉 暢
劳工檢查公約及建議書 (續)…………… 歷屆國際劳工大会通過	張天開訊
傷殘工人就業輔導……………	趙二喜訊
美国制止少年犯罪的措施……………	孫敬婉訊
專載	
中国劳工運動的新時代與新使命……………	谷正綱
書刊評介	
范智兒論人口的数量與品質 (<i>People: The Quantity and Quality of Population</i> , by Henry P.Fairchild, 1939)……………	孫本文
遠東暴風雨的來襲 (<i>Danger from the East</i> , by Richard Edward Lauterback, 1947)……………	葉 鐸
氮化炭中毒及其防護……………	葉 鐸
社会安全概要 國際劳工局編·張永懋譯……………	葉 鐸
(1948年5月社会部中央社会保險局籌備處發行)	
国内期刊內容介紹……………	葉孝善
社会行政叢書介紹……………	社会部研究室主編
社会学界消息	
中央大学社会学系近況 齊魯大学社会学系概況 私立鄉村建設学院社会学系概況	
社工報導	
1年来首都過境難民之處理……………	刁抱石
南京工人福利社概況……………	清 流
蘭州社会服務處36(1947)年度工作概況……………	韓文華
社政研究工作的檢討……………	趙斯鋪

社会法規

社会部直属各育幼院所卒業兒童升學輔導弁法（1948年3月25日社会部公布）

県各級衛生機關設置弁法（1948年1月17日行政院公布施行）

統計図表

全国各重要城市工人生活費指数（1948年1月至4月）…………… 社会部統計処他

歷年全国合作社進展指数図（1937年至1947年）…………… 社会部統計処製

『社会建設』（復刊 第1卷第3期，1948年7月1日）

友鄰社運動與地方社会建設…………… 陳文僊

兒童福利與犯罪予防…………… 朱約庵

過失兒童的個案研究及其处理…………… 湯銘新

社会工作與大同之治…………… 范 任

從社会安全論到就業輔導計畫…………… 許昌齡

美国社会学家彭德爾（Rudolph Michael Binder）的学說…………… 孫本文

國際人權公約暨國際人權宣言草案…………… 葉鏗詠

書刊評介

金師堡（Morris Ginsberg）教授著「理智與非理智在社会中的地位」（*Reason and Unreason in Society, 1947*）…………… 傅尚霖

宋德生著（Dwight Sanderson）的「農村社会学與農村社会組織」（*Rural Sociology and Rural Social Organization, 1942*）…………… 孫本文

孫本文教授著『当代中国社会学』（1948）…………… 陳定閔

欧美各国新出社会安全書刊介紹…………… 葉孝善

国外期刊內容介紹

美国社会学雜誌（*The American Journal of Sociology, vol.53, no.5, 1948*）…………… 陳倚興

社会学界消息

中央大学社会学系半年来的社会服務 滬江大学社会学系及社会服務概況

社工報導

台湾農会的考察…………… 楊 琪

南京兒童福利實驗区举行兒童運動会

4年来的福建区鹽業工会…………… 馬啓賢

重慶實驗救濟院工作概況…………… 楊光輝

重慶職業介紹所的過去與未來…………… 李震川

社会法規

中華民國政府與聯合國國際兒童急救基金会協定（1948年5月21日締訂於南京）

統計図表

工人生活費指数（1948年5月） 勞工工資（1948年1-4月） 歷年合作社業務分配図（社会部

統計処製） 全国合作社分布図（社会部統計処製）

讀者通訊

『社会建設』（復刊 第1卷第4期，1948年8月1日）

論著

（民国）37年下半年度社会行政施政方針…………… 谷正綱

行憲後之勞工行政…………… 馬超俊

今日之中国勞工行政…………… 陸京士

中国勞工階級與当前的經濟危機…………… 陳 達

改進社会救濟工作芻議…………… 張翼鴻

推廣合作事業安定農民生活…………… 陳仲明

安定農民生活之一基本条件－發展農村經濟…………… 吳湘山

社会行政在戰乱中的地位與責任…………… 金平歐

第6屆國際勞工統計專家會議之經過與決議…………… 汪 龍

專題研究

南京人口的分析…………… 孫本文·席汝楫

記述

第4屆國際社會工作會議紀要..... 葉鐔訊

參考資料

英國社會安全制度 -1948年7月9日英國駐華勞工參贊廣播詞 - E.W.Hunt

南斯拉夫(ユーゴスラビア)的勞工檢查制度..... 張天開

中國荒政要籍題解..... 王世穎

書刊評介

崔賓(F.Stuart Chapin)教授著的「社會學研究的實驗計畫」(*Experimental Designs in Sociological Research*, 1947)..... 孫本文

奧登(Howard Washington Odum)的了解社會(*Understanding Society: the principles of dynamic sociology*, 1947)..... 陳定閔

社會學界消息

中國社會學社舉行第8屆理事第1次會議

谷部長報告汙垣匪災及救濟情形

社工報導

查勘湘省水災紀..... 李鴻音

半年來社會救濟工作概況..... 萬惟楨

青島難民救濟工作剪影..... 刁抱石

我國弁理國際勞工工作概況..... 鯤 翔

社會法規

城市信用合作社管理弁法(1948年6月15日財政社會兩部會銜公布)

社會部南京傷殘重建院組織規程(1948年7月7日社會部頒布)

統計圖表

各重要城市工人工資指數

『社會建設』(復刊 第1卷第5期, 1948年9月1日)

論著

社會工作是一種社會制度抑社會運動..... 吳 楨

社會共生研究..... 張少徽

社會建設的精神基礎..... 吳湘山

傷殘重建與個案工作..... 朱思明

第6屆國際勞工統計專家會議之經過與決議(統第4期)..... 汪 龍

專題研究

南京市的工廠勞工..... 孫本文·趙二喜

美國社會學家對美國家庭之研究..... 陳倚興

記述

瑞典(スイス)對產婦與兒童的保健計畫..... 孫敬婉訊

印度煤鑛工人之衛生及醫藥設備..... 吳開運訊

參考資料

殘廢自助裝配器具..... 葉 鐔

我國東南區少年工體高體重標準釐定之經過..... 李宗孔

書刊評介

費隱客(Arthur Emil Fink)著的「社會工作的園地」(*The Field of Social Work*, 1947)..... 孫本文

社會學界消息

全國各大學社會學教師一覽(1948年7月調查)

社工報導

湖南社會救濟福利事業一瞥..... 李鴻音

社會服務事業之回顧與前瞻..... 項學儒

重慶殘疾教養所最近工作概況..... 郝慶培

廢墟上的樂園..... 忙 狸

社會法規

社會部重慶職業介紹所組織規程(1948年7月23日修正公布)

統計図表

工人生活費指数（1948年6月至7月）
各重要城市工人生活費指数

『社会建設』（復刊 第1卷第6期，1948年10月1日）

論著

德国社会保険制度……………上官性康
英国全民社会保険計画概観……………黄德鴻
英国国民保険制度析評……………徐時中
美国老年遺族保険制度……………周光琦
世界各国社会保険概況……………王徵葵

訳述

英国青年職業指導……………趙二喜訳

書刊評介

許偉業（Karl de Schweinitz）著「英国到社会安全之路-1349至1947」（*England's Road to Social Security:1849 to 1947, 1947*）……………孫本文
外国少年法庭之立法（*Legislation on Juvenile Courts in Foreign Countries, 1947*）
（Smith, Anna Kaiet 著）……………葉 鐸
美国社会安全最新書刊簡介……………葉 鐸

社会学界消息

中国社会学社将举行第9届年会並紀念20週年

社工報導

開封匪災救濟工作概述……………陳宋如
行総解凍物資之分配及使用概況……………魏德良
農民福利事業之弁理經過及其展望……………安静之
南京公教新郵服務工作報導……………徐士俊

統計図表

京滬等14城市産業技術人員及工人人数（民国36年底）
京滬等14城市産業技術人員與工人比較図（民国36年底）
京滬等14城市産業工人地域分布図（民国36年底）

『社会建設』（復刊 第1卷第7期，1948年11月1日）

論著

中国社会行政之過去與現在－中国社会学社20週年紀念会講詞－……………谷正綱講・李新民記
美国的工会政策……………張天開
社会政策的理論体系……………盧祖清
論社会安全制度……………周光琦
美国的社会保険事業……………吳学峻

專題研究

小市鎮人口構成的分析－廣東坪石鎮的人口靜態……………劉渠
從婚姻廣告觀察中国戰時婚姻問題……………岑家梧
南京市52個教員家庭生活費之分析……………孫本文・凌楚璿

書刊評介

薛湯銘新著「兒童行為指導工作」（1948）……………孫本文
丹麥社会立法（*Social Denmark, a survey of the Danish social legislation, 1947*，
英訳者 W.E.Calvert）……………葉 鐸

社会学界消息

中国社会学社举行第9届年会及成立20週年紀念大会 国立雲南大学社会学系来函

社工報導

印度的就業指導……………喻兆明
1年来的湖南省兒童保育所……………葉子毅
烏江農業推广实验区業務概況

統計圖表

歷年全国人民團體及其會員數

『社會建設』(復刊 第1卷第8期, 1948年12月1日)

論著

- 社會調查與社會事業之關連…………… 陳仁炳
 從近6個月來工礦災變看中國工礦檢查…………… 張天開
 社會政策淺積…………… 吳湘山
 社會安全中紅十字會業務之價值…………… 楊寶煌
 英國社會改革家韋勃(Sidney James Hobb)的事業與思想…………… 孫本文

記述

- 印度之童工——串慘絕人寰災難——…………… Missk. H. □原著·黃庭柱編譯
 工業傷害次數…………… 陳藻潭譯

參考資料

- 國際運輸工人聯合會發展史略…………… 王家新
 美國職業介紹事業發展史要…………… 陳禮頌

書刊評介

- 蘇特蘭(Robert L.Satherland)伍德華(Julian L.Woodward)的合著
 社會學導論(*Introductory Sociology*, 1940)…………… 陳定閔

社會學界消息

- 中國社會學社京平兩區理監事選出
 國立中央大學社會學研究所近訊

社工報導

- 察哈爾省宣化區難民救濟工作報導…………… 汪兆成
 開展中之河北農運…………… 楊 琪
 生活在水上的婦孺們…………… 梁仲筠
 教育會之沿革…………… 韓健民

社會法規

- 各省市救濟款產整理規則(1948年10月30日社會部公布)

統計圖表

全國人民團體及其會員數(1948年6月底)

『社會建設』(復刊 第1卷第9期, 1949年1月1日)

論著

- 英國職工賠償與國民傷害保險的比觀…………… 黃德鴻
 美國之職業介紹事業…………… 陳禮頌
 住宅救濟政策概述…………… 盧祖清
 實驗救濟應有之認識…………… 楊光輝
 從職業介紹看重慶社會…………… 李震川
 中國貧窮問題之研究…………… 黎文彩

記述

- 法國社會保險的演進——從社會保險到社會安全——…………… 趙昇記

書刊評介

- 波蘭勞工立法暨社會保險(*Labour Legislation and Social Insurance in Poland*,
 by Jozef Bloch, 1945)…………… 葉 鈞

社工報導

- 利民天府開灤等煤礦災變情形檢討…………… 楊竹琳
 職介工作中的幾個啓示…………… 湯鴻庫

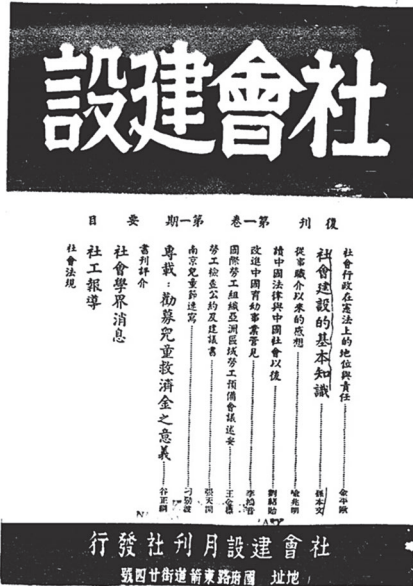
社會法規

- 工會法(1948年12月10日立法院會議3讀通過)

統計圖表

各省市合作社歷年進展比較表

【資料6】『社会建設』（復刊）第1巻第1期，1948年6月の表紙と裏表紙



THE JOURNAL OF SOCIAL RECONSTRUCTION

A Monthly Magazine on Sociology and Social Work

Publisher: Charles K. A. Wang

Editor-in-Chief: P. W. Sun

Volume I.

May, 1948

Number 1.

CONTENTS

Constitutional Status of Social Administration	P. O. Chin
Basic knowledge of Social Reconstruction	P. W. Sun
My Experiences in Employment Service	C. M. Yu
Reflections on "Chinese Law and Society"	H. I. Liu
On the Improvement of Child Care Work in China	H. Y. Li
A Study in Cripple Education	T. C. Wang
The Propagatory Asian Conference of I. L. O. at New Delhi	C. P. Wang
Labor Trouble Under the Microscope	Translated by N. Yih
Conventions and Recommendations of I. L. O. on Labor Inspection	Ed. H. Chao
Children's Day at Nanking	T. K. Chiang
The Significance of Children's Relief Fund (Special article)	C. P. Tiao
Book Reviews	C. K. Ku
Social Work Reports	
News Items	
Recent Social Legislation	

Published by the Journal of Social Reconstruction

24 T'ung Chia Tiao, Kuo Fu Lu
Nanking, China

おわりに—中国社会学社の活動の停止と改革・開放後の社会学学術組織の創設—

中国社会学社の活動の停止は、年次大会からみれば、1948年10月2日の第9回大会をもってである。また、刊物物からみれば、その停止は社会学刊が1948年1月、社会学訊が1948年4月20日、中国社会学訊が1948年9月、社会建設（復刊）が1949年1月1日である。いずれも、1949年10月1日の中華人民共和国樹立の直前の時期である。政権を獲得した中国共産党は社会学の存続を許さなかった。党は、社会学を資本主義国の学問であるとし、ブルジョアの学問であり、共産主義社会にはマルクス＝レーニン主義という史的唯物論があるので社会学は必要ないと考えたからである。実際、1949年の建国から継続して社会学は調整され、1957年から1958年前半にかけての反右派闘争で、社会学は人口学とともに完全に否定されてタブーとなった。これ以後、約20年余りにわたって中国の大陸から社会学は消滅した。社会学が再建、回復したのは1978年末の中国共産党11期3中全会の改革・開放政策への転換後の1979年3月のことである。この社会学の回復の経過については、当時の中国社会科学院院長の胡喬木が講話で述べている⁽⁸⁾。

中国の社会学の発展段階は、1900年前後の導入から1948年の民国末期までの約50年の前期発展期、1949年の中華人民共和国樹立から1978年12月の経済発展を優先する経済改革・対外開放期以前までの衰退期、1979年から現在までの後期発展期に大別できる。前期発展期は清末の国際的な政治環境に由来しているし、衰退期は共産党政権の権力把握という国内的な

政治的環境からきているし、後期発展期は共産党の改革・開放政策への転換という国内のおよび対外的な政治状況に由来している。中国の社会学は、いずれの段階も中国の歴史的、政治的、経済的、社会的状況に大きく規定されてきた。

〔注〕

- (1) 中国社会学会が刊行した社会学雑誌の停刊年は、文献によってさまざまである。たとえば、韓明謨は1932年11月の第5巻第4期（韓明謨著（1987）・星明訳（2005）、『中国社会学史』、行路社、p.84）、傅懐冬は1933年3月の第5巻第7期（ママ）（傅懐冬、1991a、「社会学雑誌」、中国大百科全書総編輯委員会《社会学》編輯委員会、『中国大百科全書（社会学）』、中国大百科全書出版社、p.347）、鄭杭生・李迎生らは年代をあげていないが、第3巻第3期だという（鄭杭生・李迎生、2000、『中国社会学史新編』、高等教育出版社 p.83）。また、中国の国家図書館の検索では、1922-1933年となっている。（<http://find.nlc.cn/search/showDocDetails?docId=8831963355057047606&dataSource=ucs01&query=社会学雑誌>）。
- (2) 韓明謨は「……1922年2月、留学から帰国した余天休が北京で「中国社会学会」を組織し、同時に『社会学雑誌』を創刊し、上海商務印書館から出版した。余天休は20年代の中国の社会学の草創期にかなり活躍した人物である。かれが結成した中国社会学会は、実際にはごく少数のメンバーがいたにすぎなかった。かれが創刊した『社会学雑誌』は、実際にはかれ一人によって編集されていた。かれは北京にいる時、東方大学を設立し、辺境地域を殖産する人材を養成した。1930年、西安に行き中山大学を開設し、学長になり、間もなくまた齐鲁大学の教授になった。かれが創刊した『社会学雑誌』は隔月刊であり、最初の2巻は北京で発行された（上海商務印書館からの出版）。全部で8冊刊行され、期間は1922年3月から1925年8月であり、第3巻は1930年になって、余本人が北京から西安に移ったことにより西安で、また第4巻はかれが済南に移ったことにより済南で発行された。1932年11月に、第5巻4号で打ち切られたが、前後して11年、時間は相当長きにわたったが、社会学の発展にとって、価値ある論文をだしたかということ、その後にだされた社会学の刊行物には及ばなかった。余天休本人は前後して15冊の著作があると吹聴したが、初期の中国の社会学界でいささかの地位ももっていない。余天休の思想は、『社会学雑誌』の第1巻第1号でみると、その冒頭に要点が次のように述べられている。『現在、多くのひとが外国のものを中国に取り入れているが、一切切をうのみにしており、少しも研究を加えない。これは中国のもっとも不幸なことである。また、多くのひとが中国の社会情勢に対しても注意を払っていない。研究の側面からも分析を加える技量がなく、意外にも『社会主義』、『労農主義』、『工団主義』、『共産主義』、『無政府主義』および『職業組合主義』等々といったような各種の主義に見分けがつかなかった。……一種の「中国主義」(Chinaism)を生みださねばならない」と。ここからわかるように、余天休は社会主義、共産主義には反対であった。この思想は、五・四運動以後の中国では遅れたものである。同時に、余天休本人にはどんな高い水準の著作もない。したがって、かれは初期の社会学界で活躍したけれども、その影響はさして大きくなかった」（韓明謨著（1987）・星明訳（2005）、前掲書、p.84）、また、鄭杭生・李迎生は「……余天休はわが国で社会学の研究を提唱したもっとも初期の一人であり、……中国の初期の社会学の発展に一定の貢献をした……」（鄭杭生・李迎生、2000、『中国社会学史新編』、高等教育出版社 p.83）と、また「余天休が組織した中国社会学会は当時の政治的圧力およびかれ自身の原因によって行き詰まった後、中国の社会学界は再び共同研究機構のない状況となった。余が組織した社会学会は意義という点からみれば有名無実だけれども、はじめからおわりまで決して社会学者に影響を与えなかったわけではない」（鄭杭生・李迎生、同上、p.85）と述べている。
- (3) 星明、2021、『中国社会学史の研究』、一粒書房、pp.43-47。
- (4) 星明、2021、同上、pp.47-49。

- (5) 韓明謨著（1987）・星明訳（2005）, 「付録 中国社会学史年譜（1891-1998年）」, 前掲書, pp.239-249。
- (6) ここでは8回とあるが, 1948年10月1-2日に南京中央大学で年次大会参加者の集合写真には, 「中国社会学社年会第9届廿周年紀念大会」の横断幕が写っているし, 本稿でとりあげた『中国社会学訊』（中国社会学社20周年紀念暨第9届年会特刊）（第8期, 1948年9月）にも第9届年会的記載がある。この違いは, 学社の成立大会を第1回大会としたからであるが, 実際は「成立大会」と「第1回大会」とは開催の日程も開催場所も異なる。これに関しては, 筆者がすでに指摘しているので参照願いたい（星明, 2021, 前掲書, pp.24-27）。
- (7) 実際は, 5巻第3期（1937年4月20日刊行）が正しい（星明, 2023, 『中国社会学史－清末民国, 反右派闘争, 改革開放下の社会学－』, フィールドワークズ, p.87）
- (8) この講話の全文は, 韓明謨, 2002, 「胡喬木同志在社会学座談会上的講話」, 『20世紀百年学案・社会学卷』, 陝西人民出版社, pp.297-308に掲載されている。筆者がすでに, 訳出しているので参照願いたい（星明, 2021, 前掲書, pp.232-245）。

【謝辞】

本稿に関しては, 城西国際大学の姜寅星先生から多くの助言と指導をいただいた。資料は1920年代から1940年代のものをPDFにしたものである。原資料の経年劣化がはげしくまったく判読が不可能なページも, 文字も画数の多い繁体字のために字崩れがあり判読不可能な文字もあった。パソコンのモニター上で拡大し, 拡大鏡でいろんな角度からみて判読を試みたが, どうしても判読できなかったところがあった。

幸い姜寅星先生から筆者の判読不能の多くの文字を判読していただき, ほんとうに助けられた。ここに記して感謝申し上げます。

（ほし あきら 佛教大学名誉教授）

2023年10月20日受理